

青山教会会報

「み名をあがめさせたまえ」

詩編一四三編十節

使徒言行録三章一〜十節

牧師 増田将平

神殿の門の前に生まれながら足の不自由な男が運ばれてきました。時は午後三時の祈りの時間で、大勢の人々が門を通って神殿に入って行きます。いつもの場所の人々を眺めているうちにペトロとヨハネを見つけて施しを求めました。

弟子たちはこの男をじっと見つめて言いました。「わたしたちを見なさい」。言われた通り二人に注目しますが、彼が心の内に見ていたのはやがて手にするお金でした。「施し」という聖書の言葉には「憐れみ」という意味もあります。この男は「自分は人々の憐れみが必要としている人間だ」と思っていました。憐れみが必要なのは惨めだからです。彼にとつての

惨めさとは不自由な体であり、そこから生じる貧しさでした。その惨めさを解決するために金銀が必要だと思っていました。だから弟子たちが男を見つめて「わたしたちには金銀は無い」と言った時はさぞかしがっかりしたと思います。けれどもペトロはこの言葉で「あなたの惨めさを解決するのは金銀ではない」ことを告げているのです。

私も何に目を注いで生きているのでしょうか。その人が見つめているものに人生は方向づけられます。もしもお金だけに目を向けている人がいるなら、その人の人生はお金に向かって進んでいくでしょう。果たして私が求めているものは、本当に良いもので必要なものなのでしょうか。

ペトロは、彼の目を見るべきものに向けさせます。興味深いことにペトロは「イエス・キリストを見なさい」とは言わずにこう言いました。

「わたしたちを見なさい」
ペトロという人を見てみましょう。彼は漁師でした。主に声をかけられて、網を捨てて弟子になりました。ところが、主イエスの十字架の予告を聞くと主をいさめて言いました。「あなたは救い主なの

ですから、そんなことがあってはいけません」。ここで、これまでペトロが見ていたものが明らかに変わりました。主イエスについていけばいつか偉くなれると思っていたのに、このままだと全てが無駄になってしまいかもしれないと思ったのです。ペトロは主イエスに向かって「私はあなたのために命を捨てる」と断言しますが、最後には「私はイエスなどという人と何の関係もない。そんな名前は聞いたこともない」と三度言い、主イエスを見捨てて逃げ去るのです。ペトロはもうこれで終わりだ、私は弟子失格、信仰者失格だと思いました。自分の弱さ、ずるさに立ち直ることができずにいました。弟子を辞めて元の漁師の生活に戻ったように見えました。

そのペトロが立ち上がることでできたのです。復活した主イエスがペトロのもとに来て、ペトロの手を取り、ペトロを立ち上がらせてくださったからです。それ以来、ペトロはイエス・キリストを見つめて歩み出しました。今度はペトロとヨハネが「わたしたちを見なさい」とこの男に二人を立ち上がらせたイエス・キリストを指差すのです。
この話は単に足が不自由だった人が歩

けるようになったという話ではありませ
ん。福音書記者ルカは医者だったよう
です。彼は主イエスの言葉を記しま
す。

「医者を必要とするのは、健康な人では
なく病人である。わたしが来たのは、正
しい人を招くためではなく、罪人を招い
て悔い改めさせるためである」

ここでの「病人」とはいわゆる病気の
ことではありません。自分の惨めさ、弱
さのために立ち上がることができない人
のことです。この男は真実に見るべきも
のを見ることができず、何に向かつて生
きればいいのかわからずにいました。立
ち上がることを妨げていた彼の弱さ、彼
の罪がありました。

主イエスは私どもの惨めさ、弱さをも
ご覧になり、私どもが病んでいること
をご存知です。だからこそ私どもと出会い、
癒してくださいます。「彼の受けた傷によ
って、わたしたちはいやされた」。それが
十字架です。ご自分が傷を負うことによ
って、立ち上がらせてくださいます。十字
架で死なれ、復活された主イエスは私ど
もの下に来て、私どもを立ち上がらせて
くださるのです。

この人が立ち上がったのは、立ち止ま

るためではなく、歩き出すためです。こ
れまでのように金銀を追い求めて生きる
のではなく、イエス・キリストの名によ
って歩き出すためです。そのために弟子
たちを通して、主イエスがこの人のとこ
ろに来てくださったのです。ある人が言
いました。

「彼を立ち上がらせたのは主イエスの
力。彼の右手を取ったのはペトロの手」
主イエスが弟子たちを通して働いてく
ださったのです。

この出来事は美しい門と呼ばれるとこ
ろで起きました。エルサレムにはいくつ
かの門があり、それぞれに名前が付けれ
られています。ところが「美しい門」とい
う名前は当時の記録には一切記されてい
ないために、それがどの門のことかは諸
説があつてよくわからないそうです。あ
る説教者はこのように想像します。

「生まれつき歩くことができなかつた
この人が歩けるようになった。この神の
み業が美しいのだ」

医師ルカは彼の大きな喜びを表すため
に「歩く」という言葉を何度も記しま
す。
この男は歩くことができるようになった
だけではありません。この人は、まず神

殿の中に入って行って、神を賛美しまし
た。この神殿とは私どもにとつて教会を
意味します。この人はペトロとヨハネを
通して、イエス・キリストと出会いまし
た。そして新しい仲間と出会いました。
神と関わりなく生きてきた人が、今では
喜びに溢れて、神を賛美している姿が美
しいのです。「それで、この門は『美しい
門』と名付けられたのではないか」とこ
の説教者は言います。

毎週の教会学校は八時四五分の教師祈
禱会から始まります。今朝、ある教師が
このように祈りました。

「子どもたちが私たちの言葉によって、
私たちの背中を見てあなたを知ることが
できますように」

ここにも主イエスの弟子たち、現代の
ペトロとヨハネがいます。私どももイエ
ス・キリストの名によって立ち上がり、
「み名をあげめさせたまえ」と祈りつつ
生きる時、その人生は美しいのです。

(五月十四日礼拝説教要旨)